

教科・領域等 [ 社会 (総合的な学習の時間) ]

1 児童生徒の学びをサポートするICT活用

(2) 対話的な学び

**こんな実践**

児童が地区のよさを積極的にとらえ、自分の住む町を大切にしていこうという思いが持てるように、「社会及び総合的な学習の時間」に、友と関わりながら主体的に学習に取り組み、深めていけるように考えた実践です。具体的には、学習のまとめとして「プレゼンテーション」の場を設け、既習の力を生かしながら発表内容を考え、プレゼンテーションをしたり、聞き合ったりする中で、再度自分の住む町のよさに目を向けていくことをねらった実践です

実践学校 O小学校

実践学年 3学年

実践時期 5月～6月

単元・題材名 「わたしたちのまち みんなのまち」

学習指導要領との関連：(1) 身近な地域や市町村の様子

①情報の収集・整理

児童が、自分の住んでいる地域の見所を紹介しながら地域めぐりをしました。(写真左)。次の時間、そのときに撮っておいた写真を見ながら気付いたこと、分かったこと、疑問に思ったことを出してまとめていきました。(写真中)。写真を並べて見ることで、様々な特色が見えてきました。さらには、新たに調べたいことも生まれてきました(写真右)。



②課題解決のための対話的な学び (比較・検討)

見えてきた地域の特色ごとにグループを組み、その地域の特色について白地図にまとめ、今まで調べてきた情報を出し合いながら、考えを交流していきました。話し合う中で、「この写真がほしい」という要望も出てきたので、児童が実際に現地に行き、写真を撮って学校に持ってきて、追加していくグループも出てきました。

### ③国語の既習内容を生かした取り組み

細かい情報を含めて、集めた情報の中からプレゼンテーションで伝えたいことを付箋に書き出し、その中から必要は情報を取捨選択し、並び替え、発表したいことを決め出していました。国語の時間の既習内容が生かされた場面でした。

### ④まとめの共有＝「プレゼンテーション」

「歴史」「蚕の家」「農業」「豊かな自然」「お店」「公共施設」のグループごとに、プレゼンテーションソフトに収めておいた内容を、電子黒板を利用し、児童がタッチペンで画面を切り替え、記入しながら、発表していきました。他のグループの発表を聞きながら、今までの自分の考えを吸収したりしていく姿が見られました。子供達から新たな「不思議」もたくさん出され、次の学習へとつながっていきました。



### ⑤日常的に育てている能力



この学級では、国語の時間を利用して、ビブリオバトルにも挑戦しています。全教育活動を通じて、「話す・聞くスキルの定着」、「相手に思いが伝わるような文の組み立てを考えること」、「友達と話し合うことが好き」「友達の見解を聞くことが楽しい」などの共有意識を学級の基盤として育てているよう心がけています。日常的に友との対話的な活動のよさや大切さを共有した上で、情報機器を活用することにより、それらが、より有効かつ円滑に育まれると考えます。



#### ここがポイント！

- ・自ら必要な情報をカメラで撮影し取材する機会を与えたり、「プレゼンテーション」という場を仕組んだりすることで、児童はより主体的に情報を集めたり、活用したり、対話したりすることができます。

#### まとめ

- ・情報を共有する仕組みが工夫されており、授業を重ねるたびに友達考えにも触れながら自身の考えが深まったり、ひろがったりしていきます。